

わばら

平成二十五年は、第二祖日向聖人の七百遠忌です。

題字・持田日勇貢首貌下

第21号

発行日 平成 21 年 4 月 5 日

発行所 千葉県茂原市茂原 1201
日蓮宗本山東身延 茂原寺
発行責任者 総務執事 増田 寶泉
TEL0475-22-3153

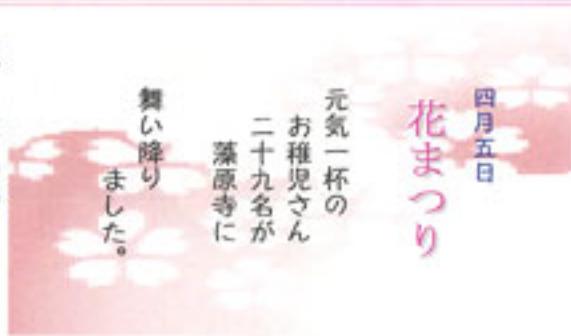
掲示板

- 本年4月29日の「いのりの日」は静岡の岩本 実相寺
- 5月14日身延山の五重塔が完成し落慶式が厳修されます。
- 6月10日中山法華経寺で立正安国論奏進七百五十年 中山宗門法要
- 10月15~16日京都・日蓮展団参実施予定(募集 30名)



五月九日(土)

第四回目の時代行列「日蓮聖人お迎え時代行列」を行います。多くの皆様の参加を募集します。





持田貫首猊下

当山筆頭総代の佐藤利夫氏の追悼文を書こうと思いましたが、むしろ本葬の時の引導文の方が良いと思いました。佐藤氏を「存じない方も告別式の引導文がどうゆうものかお解りになると思いまして掲載いたしました」。

引導文

謹んで勧請し奉る

南無輪円具足未曾有大曼陀羅御本尊、南無久遠実成の教主本師釈迦牟尼佛、南無證明法華經の多寶如來、南無十方分身三世の諸佛、南無上行、無邊行、淨行、安立行等本化地涌の諸大菩薩、南無文殊、普賢、彌勒、觀音等迹化他方來大梵天王、釈提桓因、護世四天王等、一乘擁護の諸天善神、殊には末法有縁の大導師、當山開山本化上行高祖南無日蓮大菩薩、第二祖門祖

六老僧、日向聖人、第三祖日秀聖人、以來歴代の先師、開基常在院殿日朝尊儀等、別しては閻羅法皇五道の冥官冥衆等、來臨影櫛知見照覽なさしめ給え。

方に今、八十歳を今生の一期として幽冥に赴く一靈魂あり、其の俗名佐藤利夫を転じて、新たに本化の法號を授与し、信行院勇猛曰利大居士と號す。

此は是れ閻浮第一法華經の行者曰蓮大菩薩の檀越なり。仰ぎ願くは上來勸請の仏陀、諸尊大慈大悲の御手を垂れ靈也をして寂光の寶土に攝取引入したまえ。

夫れ惟れば、三界火宅は幻夢の如く、五陰空舍は泡沫に似たり、大梵宮台の果報尚必滅の悲に遣い、帝釋喜見の娛樂も亦退没の終りあり、況や下地凡身寧ろ常住を得んや。茲に新帰寂 信行院勇猛曰利大居士 維時平成二十一年一月七日一息忽ちに絶え五大立ろに散じ畢ぬ。ああ悲哉。

状を察すれば 大居士 昭和五年十月二十四日茂原市根町に佐藤精三氏と琴女の長男として生れる。幼少の頃より、悲母病弱のため炊事等を手助けし、弟妹の面倒を見て、家族を支えたり。

長じて長生高校第一期生とし

て入学、野球部や柔道部にて活躍す。卒業後、家業の看板業を手伝い、昭和六十二年株式会社サトペンを興して発展を図り、今日の隆盛を見るに至る。

大居士は平成六年五月、本山檀



ありし日の当山筆頭総代佐藤利夫様(左から3番目)

信徒有志を集めて世話人会を組織し、会長に推されて、本山諸行事の円滑なる運営と無事円成に貢献されたり。

平成八年五月には総代に推挙され、本山諸行事、特に第分会、お題目初唱会、お会式においては実行委員長として世話人会、及びその他の講中をまとめ、行事の成

功を圖られたり。

平成十三年末小衲が住職に就任以来、呼応して朝勤に参加し、既に朝勤に参拝せる良子夫人と共に、有志を集めて朝勤会を組織し、現在、常時数名ほどが毎日朝五時半からの朝勤に参加される機縁を作れり。

大居士は、一日に一回以上、寺

を訪れて境内地の見回りを行ない、小納を補佐して、諸堂の増改築、補修、境内地、墓地の整備に差配を勤め、小納の要請に応じ、世話人を勧誘して、彼岸池、洗心池、円寿池を完成せられたり。昭和六十二年三月には子育てには大堂前に屋根付き大香炉を寄進されたり。また、平成二年に観音像を寄進し、平成四年十一月には大堂前に屋根付き大香炉を寄進されたり。また、平成二年に完成した千葉県東方沖地震の災害による大堂補修工事には、内陣の華麗なる塗装をなし、その他事業の円成に貢献せり。

平成八年末に放火によつて焼失し、平成十二年に再建した華経殿の建築工事には事業副委員長として多大の貢献をなせり。平成七年には大堂祖師像冬衣一式、平成十六年には大堂横の水屋水盤を寄進し、更に平成十七年には華経殿の参道に大灯籠一対

を寄進し、また有志に勧めて参道の両脇を大灯籠で飾り、山容いよいよ輝きを増したり。その寄進総額は二千万円を超えた。

現在当山總代長として、更に千葉県西部檀信徒協議会会长として活躍中なり。

平成十九年四月、七十七歳、喜寿を迎えると共に、国家より多年に亘る長生地区消防団活動並びに法人会活動その他地域社会へ貢献を褒賞され、瑞宝章光章叙勲の栄に浴す。更に同年七月宗門より一級法労章を授与されたり。その栄誉を徳とし、小納に大曼荼羅修復の際の表装製の共布を以て作製せる七条袈裟一肩を寄進されたり。

然るに、密やかに病魔に冒されしか、平成十八年頃より食進まず、平成十九年九月、小納の要請によつて中国西安草堂寺に赴きし時は些か元氣なかりし。平成二十年に入り、音声日に衰えを見せ、栄養失調かと疑いしころ、十月三十一日長生病院に緊急入院し、筋萎縮症が肺に及ぶという、十万人に一人の難病とのことで、医師の懸命なる治療を受け、良く病魔と闘かうも、ついに再起不可能となれり。ああ悲しき

かな。

大居士の支援を得ることもやはや能わず、今後の山門の整備に当たり如何せんか、小納にとりて、大いなる痛手なり。

生死の海漫々として没し易く、涅槃の頂峠々として舉じ難し。然るに此妙法蓮華經は是れ彼岸に至るの船筏、道場に至るの寶車なり。大居士率にして一乗信受の家に生れ、常に唱題誦の妙行を修す、即身成佛の大果豈虚しからん



茂原時代行列で斎藤兼綱にふんする故佐藤絶代

過去にも滅せず、未来にも生ぜず、所化以て同體なり、是れ則ち己心

の三千具足三種の世間なり。是人於佛道決定無有疑の文頼あり、唯我一人能為救護の説疑無し。この法華經は、元品の無明を切る大利飼、生死の常夜を照す大燈明たり。疾くとくこの法に乗じて雪山淨土に赴き、本師釈迦牟尼佛、導師日蓮大聖人に面奉し妙法を聽受し広く仏事をなさんことを。

惟時平成二十一年一月十五日
本山 茂原寺 第九十二世伝燈

南無妙法蓮華經。
本壽院日勇 和南 啓白

行 事

○新年祝供会(一月一日)

天候に恵まれ、例年に無く暖かな春を思わせる陽気の年明けを向かえました。午前零時、持田貫首猊下大導師のもと、多勢の参拝者に新年祝供のお加持が行われました。

○御頭講会(一月十二日)

日蓮聖人が、身延山に御在山中に波木井公が年頭のご挨拶をされた古事に則り、身延山と茂原寺でのみ行われている行事です。

式の後、貫首様から参列の皆様にご挨拶がありました。

以下・・・先日亡くなられた当山の佐藤絶代が居らつしやらないことは、真に残念で成りません。私にとっての佐藤絶代は、良き相談者であり、頼りに成る存在でした。その佐藤絶代が亡くなられた事は、試練であり、又寂しい限りです。・・中略・大聖人のお言葉の「冬は必ず春と成る」また、中国のことわざの「雨過天晴」の言葉を信じ、希望を持って生きて行かねばと思っています。



曳き馬式での

貫首様と子供達

茂原寺では、現在日蓮大聖人の大銅像の建立事業に向けて、総代・世話人・多くの人々の力を借りて努力、邁進中であります。この事業達成こそが、光明となつて社会全体を照らし、仏さまの知恵によつて、必ず過ごしや

すい社会が訪れる事と信じてお

ります。

多くの皆様のお力を借りた
だいたく。又、本日ご登山いた
だいた皆様の祈りに感謝し年頭
のご挨拶といたします。』

○節分豆撒式 (二月三日)

本年は、晴天に恵まれ、年男・
福娘、總勢七十余名が集まり除
災得幸・善星回来の御祈願がさ
れました。



誓詞言主 小林安久様

本年の福茶献上は「本納繪馬五
代目・矢部宏様」、福豆献上は
「JR 茂原駅長・内田好美様」、
誓詞言主は「茂原警察署長・小
林安久様」でした。法要の後の
豆まきでは、千人余りの来集者
に景品番号の書かれたボール他
が投げられました。

○春季彼岸会 (三月二十日)

法要直前から雨が強くなり、
参拝者は少なめでありましたが、
午後より晴れてお参り日和とな
りました。

法要終了後、貫首様のご挨拶
がありました。

『まだ雨が降っています。足
元の悪い中ご参拝くださり有難
うございました。この本山は、
千軒近くの檀家が有りますが、
満堂の人々で御向出来ない事
は残念です。』

彼岸は、此岸に対しての彼岸で、
此の岸から彼の岸にいたる為の
ご修行の一週間であります。中
日を挟み昼と夜が同じ時間にな
る前後の三日間を彼岸と申しま
す。この時期に六波羅蜜と言う
六つの修行を行わなくてはなり
ません。

茂原観光協会が茂原市に吸収さ
れた事により、本年より茂原弁
才天運営協議会(会長 田中義
之)が発足され、持田貫首様の導
師にて、大祭が歴修されました。

式の中では、茂原市の商工発展
により茂原市が益々発展し、市

民が須らく幸せに暮せる様にと
祈念されました。

四、忍辱・苦しみを耐え忍ぶ。 五、精進・続けて行く事。 六、禪定・心安らかにいる事。

この六つの行をおこなう事で彼
岸に到る事が出来るのです。

参拝者は少なめでありましたが、
午後より晴れてお参り日和とな
りました。

法要終了後、貫首様のご挨拶
がありました。

『まだ雨が降っています。足
元の悪い中ご参拝くださり有難
うございました。この本山は、
千軒近くの檀家が有りますが、
満堂の人々で御向出来ない事
は残念です。』

彼岸は、此岸に対しての彼岸で、
此の岸から彼の岸にいたる為の
ご修行の一週間であります。中
日を挟み昼と夜が同じ時間にな
る前後の三日間を彼岸と申しま
す。この時期に六波羅蜜と言う
六つの修行を行わなくてはなり
ません。

このお心に答えるべく前進をし
ていかなくては成りません。』

新入檀者紹介

茂原市下永吉 安藤静男 様

茂原市鷺巣 長谷川茂 様

(平成二十一年三月末日現在)

平成二十一年度行事予定

華経坊例祭毎月一日午前十一時

春季彼岸会 三月二十日(木)十時

華経房大祭 四月一日(木)十一時

花まつり 四月五日(日)十一時

いのりの日 四月二十九日(火)

身延山布教隊來山

四月二十九日(火)

お題目初唱会 五月九日(土)

宗祖御更衣会式

六月一日十八時

ホウロク灸 七月十九日九時

盂蘭盆施餓鬼会

八月十五日(土)

川施餓鬼会 八月二十四日(月)

門祖講 九月三日(木)

秋季彼岸会 九月二十三日

宗祖御更衣式 十月一日十八時

向尊殿大祭 十月三日十一時

観音堂秋季大祭